

猫のマシユマロ

六年 大村彩香

7月25日早朝、父が子猫を拾ってきました。まだ目も開いてなく、へそのおもついたままでした。朝起きたら、

「ニャアー」

と聞こえたのでびっくりしました。父の話では、もう二匹子猫がいたけどカラスに食べられていて、生きていた一匹を保護してきたということでした。

私はまず部屋を作りました。ダンボールの中に、毛布やタオル、いらなくなった服などを入れ、さらにその下にカイロを入れました。生まれたばかりの子猫は、温度を32度から34度にしなければいけないからです。

その次にミルクをあげました。スポイトであげました。最初はまだ自分で飲むことができなかったのですが、こぼしてばかりいました。しかもミルクは約2時間おきにあげなければいけませんでした。あと、トイレはお尻を刺激させて出させます。

その次の日、子供会のみんなに見せたくてラジオ体操そうにもっていきました。みんなが

「かわいい」

など声をかけてくれたのでうれしかったです。その後名前を付けました。毛が少なくても、ふつうの猫よりかわいく見えて毛の色も白かったので、「マシユマロ」という名前にしました。

3日目の夜、子猫のマシユマロに兄がミルクをあげると、自分からミルクを飲んでくれたので、すぐうれしかったです。マシユマロも少しだけ成長したなあと思いました。

数日後、またラジオ体操そうがありました。その日、起きるのがおそかったため、すぐにミルクをあげることができませんでした。

ラジオ体操そうが終わった後にミルクをあげようと思い家を出ました。しかし家に帰るとマシユマロは動かなくなっていました。生まれたばかりの子猫はとっせん死することがあるそうです。

その後たくさん泣きました。兄はあまりにも悲しくて部活を休んでしまいました。

その日マシユマロのお墓を作りました。まだ目も開く前に死んでしまったし、たった7日間の命だったけど、みんなに大事にされたのできつと幸せだったと思います。命の大切さを教えてくれて本当にありがとう。天国で元気に過ごしてくれているとうれしいです。